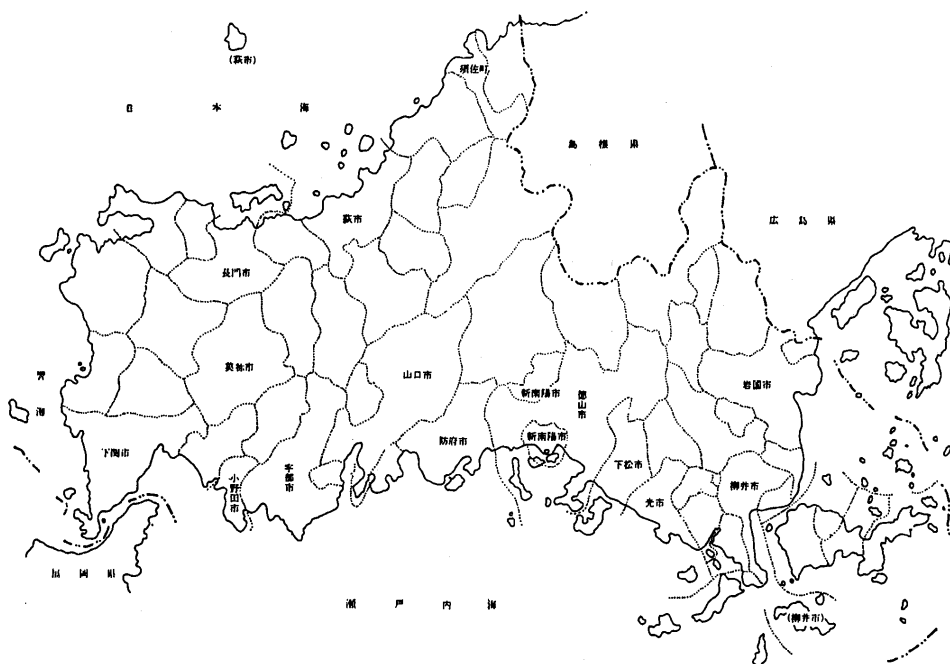


山口県内14都市の「住みよさ」、「暮らしやすさ」

財団法人 山口経済研究所

調査研究係長 光 永 久

県内14都市の「住みよさ」、「暮らしやすさ」



I. はじめに

近年、日々の生活の中にも物質的「豊さ」から精神的「豊さ」を求める傾向が強まるなど、人々の生活様式にも様々な変化が出てきており、地域における社会資本の整備、福祉政策の進め方などにも大きな影響を及ぼすまでになっている。そこで、山口県内の「住みよさ」、「暮らしやすさ」はどの程度であろうかということから、各種の統計に基づいて、県内の14都市について試算、比較してみることにした。

方法としては、標準得点方式、標準化指数方式、二基準点方式、改善度指数方式など色々な方法が考えられるが、今回は平均値と標準偏差を一定の尺度とする標準得点方式を使って都市間の相対的な水準を比較してみた。

なお、都市部に限定した理由は、山口県内には56の市町村あるが、町村部は同じ基準

に基づくデータが少ないうえ、有っても、不完全なもの、全町村が揃わないものが多く、一律的な比較が難しいという判断からである。また、データについては、当研究所や商工会議所、NTTなど、いわゆる民間のデータは用いず、国や県が調査した公的な統計データを採用、その中でも、出来る限り生活に密着したデータを選んだつもりである。ただ、有効求人倍率や環境衛生関連施設数など複数の市町村にまたがる広域データ、あるいは、家計調査や物価指数など一部の都市しか把握できない項目は除外したため、該当するデータが限られることから、住民が抱いている生活実感とは若干ズレが生ずる可能性があることを、あらかじめ、お断りしておく必要がある。

II. 採用データについて

1. 指標の選定

それでは、まず、指標の選定であるが(資料1)、生活関連の様々な統計データの中から83項目を選び、これを(表-1)のような指標、例えば、人口1,000人当たりの交通事故発生件数、人口1,000人当たりの火災り災人員などの指標にして、これらをそれぞれ(1)犯罪、火災など社会生活上の危険度合いなどを示す安全度、(2)福祉・医療体制などの水準を示す安心度、(3)居住水準や都市基盤整備状況などを示す快適度、(4)買物や公共施設の利用状況などを示す利便度、(5)所得や財政、就業状況などの水準を示す余裕度、(6)義務教育施設や高等学校進学率などの水準を示す教育度の6つの区分に分類した。

(資料1) 項目別参考資料等

区 分	項 目	参 考 資 料 等
安全度 7項目	1. 交通事故発生件数 2. 火災り災人員 3. 消防費 4. 消防人口 5. 刑法犯認知件数 6. うち、凶悪犯・粗暴犯認知件数 7. 警察署・派出所数	交通統計 消防防災年報 市町村財政概要 消防防災年報 犯罪統計書 犯罪統計書 総務庁統計資料
安心度 22項目	1. 保育所入所人員 2. 児童福祉施設数 3. 児童福祉費 4. 老人福祉施設数 5. 老人福祉費 6. 老人家庭奉仕員数 7. 病院・診療所数(可住地面積当たり) 8. 病院・診療所数(人口当たり) 9. 薬局数 10. 医師数 11. 病床数 12. 健康教育参加者数 13. 成人病集団検診受診者数	山口県統計年鑑 社会福祉施設等名簿 市町村財政概要 社会福祉施設等名簿 市町村財政概要 総務庁統計資料 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 成人病統計

	<ul style="list-style-type: none"> 14. 普通死亡率 15. 乳児死亡率 16. 人工死産割合 17. 成人病死亡者数 18. 婚姻件数 19. 離婚件数 20. 自殺者数 21. 公害苦情等受理件数 22. 降下ばいじん量 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 衛生統計年報 環境白書 環境白書
<p>快適度 18項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 人口密度 2. 社会教育費 3. 文化財指定件数 4. スポーツ施設数 5. 体育施設費 6. 老人クラブ加入者数 7. 書籍・雑誌年間販売額 8. 都市公園・緑地面積 9. ごみ衛生処理率 10. し尿衛生処理率 11. 水道普及率 12. 公共下水道普及率 13. 水洗化割合 14. 家屋床面積 15. 家庭使用電力量 16. テレビ放送受信契約数 17. カラー・衛生放送受信契約数 18. 生活道路舗装率 	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査 市町村財政概要 山口県統計年鑑 保健体育関係事業概要 他 市町村財政概要 総務庁統計資料 商業統計 山口県統計年鑑 市町村公共施設概要 市町村公共施設概要 山口県統計年鑑 山口県統計年鑑 山口県統計年鑑 山口県統計年鑑 市町村税務概要 中国電力(株)山口支店 放送受信契約数統計要覧 放送受信契約数統計要覧 山口県の道路現況
<p>利便度 11項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 公民館数 2. 図書館蔵書数 3. 図書館外貸出冊数(個人) 4. 小売業商店数(可住地面積当たり) 5. 小売業商店数(人口当たり) 6. 小売業売場面積 7. 飲食店数 8. 金融機関店舗数 9. 乗用自動車普及率 10. 電話普及率 11. ハイ・タク事業車両状況 	<ul style="list-style-type: none"> 山口県統計年鑑 県立図書館 県立図書館 商業統計 商業統計 商業統計 商業統計 商業統計 総務庁統計資料、中国財務局 県陸運事務所 日本電信電話(株)山口支店 中国運輸局
<p>余裕度 13項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 昼間人口比率 2. 市町村民所得 3. 家計所得(個人企業を含む) 4. 雇用者所得 5. 課税対象所得 6. 高額納税者 7. 商業年間販売額 	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査 市町村民所得統計 市町村民所得統計 市町村民所得統計 市町村民所得統計 市町村税状況等の調 他 県内税務署 商業統計

	8. 普通会計歳出額 9. 持家世帯割合 10. 用途別地価（住宅地） 11. 就業率（常住地従業者） 12. 雇用者比率 13. 女子失業率	市町村財政概要 国勢調査 都道府県近調査 他 国勢調査 国勢調査 国勢調査
教育度 12項目	1. 幼稚園充足率 2. 幼稚園教員数 3. 小・中学校数 4. 小・中学校児童生徒数（教員当たり） 5. 小・中学校児童生徒数（学級当たり） 6. 小・中学校教育費 7. 小・中学校長期欠席児童生徒割合 8. 高等学校進学率 9. 公立小・中学校校舎面積 10. 公立小・中学校危険校舎面積割合 11. 公立小・中学校屋内運動場面積 12. 公立小・中学校水泳プール保有率	教育統計調査 教育統計調査 教育統計調査 教育統計調査 教育統計調査 市町村財政概要 教育統計調査 教育統計調査 市町村公共施設概要 市町村公共施設概要 市町村公共施設概要 市町村公共施設概要

表-1 採用指標

区分	指 標	倍率
安全度 7項目	1. 交通事故発生件数（人口1,000人当たり）	10
	2. 火災り炎人員（人口1,000人当たり）	5
	3. 消防費（人口1,000人当たり）	5
	4. 消防人口（人口1,000人当たり）	5
	5. 刑法犯認知件数（人口1,000人当たり）	5
	6. うち、凶悪犯・粗暴犯認知件数（人口10,000人当たり）	5
	7. 警察署・派出所数（人口10,000人当たり）	5
指標間の均衡・調整倍率合計		40
安心度 22項目	1. 保育所入所人員（0～5才人口1,000人当たり）	5
	2. 児童福祉施設数（18才未満人口1,000人当たり）	5
	3. 児童福祉費（18才未満人口1人当たり）	5
	4. 老人福祉施設数（65才以上人口1,000人当たり）	5
	5. 老人福祉費（65才以上人口1人当たり）	5
	6. 老人家庭奉仕員数（65才以上人口10,000人当たり）	5
	7. 病院・診療所数（可住地1平方キロメートル当たり）	5
	8. 病院・診療所数（人口1,000人当たり）	5
	9. 薬局数（人口10,000人当たり）	10
	10. 医師数（人口1,000人当たり）	10
	11. 病床数（人口1,000人当たり）	10
	12. 健康教育参加者数（人口1,000人当たり）	5
	13. 成人病集団検診受診者数（40才以上人口1,000人当たり）	5
	14. 普通死亡率（人口1,000人当たり）	10
	15. 乳児死亡率（出生児1,000人当たり）	10
	16. 人工死産割合	5

	17. 成人病死亡者数 (40才以上人口1,000人当たり)	5
	18. 婚姻件数 (人口1,000人当たり)	5
	19. 離婚件数 (人口1,000人当たり)	5
	20. 自殺者数 (人口1,000人当たり)	5
	21. 公害苦情等受理件数 (人口1,000人当たり)	5
	22. 降下ばいじん量 (人口1,000人当たり)	5
指標間の均衡・調整倍率合計		135
快適度 18項目	1. 人口密度 (面積1平方キロメートル当たり)	10
	2. 社会教育費 (18才以上人口1人当たり)	10
	3. 文化財指定件数 (人口10,000人当たり)	5
	4. スポーツ施設数 (人口1,000人当たり)	5
	5. 体育施設費 (人口1,000人当たり)	5
	6. 老人クラブ加入者数 (65才以上人口1,000人当たり)	5
	7. 書籍・雑誌年間販売額 (人口1人当たり)	10
	8. 都市公園・緑地面積 (人口1,000人当たり)	10
	9. ごみ衛生処理率	10
	10. し尿衛生処理率	10
	11. 水道普及率 (人口1人当たり)	10
	12. 公共下水道普及率 (人口1人当たり)	5
	13. 水洗化割合 (人口1人当たり)	5
	14. 家屋床面積 (人口1人当たり)	10
	15. 家庭使用電力量 (年度間1世帯当たり)	10
	16. テレビ放送受信契約数 (1世帯当たり)	5
	17. カラー・衛生放送受信契約数 (1世帯当たり)	5
	18. 生活道路舗装率	10
指標間の均衡・調整倍率合計		140
利便度 11項目	1. 公民館数 (人口10,000人当たり)	10
	2. 図書館蔵書数 (人口1,000人当たり)	5
	3. 図書館外貸出冊数 (個人) (人口1,000人当たり)	5
	4. 小売業商店数 (可住地1平方キロメートル当たり)	5
	5. 小売業商店数 (人口1,000人当たり)	5
	6. 小売業売場面積 (人口1人当たり)	5
	7. 飲食店数 (人口1,000人当たり)	10
	8. 金融機関店舗数 (可住地1平方キロメートル当たり)	10
	9. 乗用自動車普及率 (1世帯当たり)	10
	10. 電話普及率 (人口1,000人当たり)	10
	11. ハイ・タク事業車両状況 (人口1,000人当たり)	10
指標間の均衡・調整倍率合計		85
余裕度 13項目	1. 昼間人口比率	10
	2. 市町村民所得 (人口1人当たり)	10
	3. 家計所得 (個人企業を含む) (人口1人当たり)	10
	4. 雇用者所得 (雇用者1人当たり)	5
	5. 課税対象所得 (人口1人当たり)	5
	6. 高額納税者 (人口10,000人当たり)	5

	7. 商業年間販売額（人口1人当たり）	5
	8. 普通会計歳出額（人口1人当たり）	5
	9. 持家世帯割合	10
	10. 用途別地価（住宅地）	5
	11. 就業率（常住地従業者）	5
	12. 雇業者比率	5
	13. 女子失業率	5
指標間の均衡・調整倍率合計		85
教育度 12項目	1. 幼稚園充足率	10
	2. 幼稚園教員数（3～5才人口1,000人当たり）	10
	3. 小・中学校数（児童生徒1,000人当たり）	10
	4. 小・中学校児童生徒数（教員1人当たり）	5
	5. 小・中学校児童生徒数（1学級当たり）	5
	6. 小・中学校教育費（児童生徒1人当たり）	5
	7. 小・中学校長期欠席児童生徒割合	5
	8. 高等学校進学率	10
	9. 公立小・中学校校舎面積（児童生徒1人当たり）	5
	10. 公立小・中学校危険校舎面積割合	5
	11. 公立小・中学校屋内運動場面積（児童生徒1人当たり）	5
	12. 公立小・中学校水泳プール保有率	10
指標間の均衡・調整倍率合計		85

※ 平成2年移行の都市人口は平成2年の国勢調査の人口を使用

2. 作成対象年次及び算定方法

次に、作成対象年次及び算定方法であるが、対象年次は、国勢調査年次に合わせて昭和50年、55年、60年、平成2年の4時点、及びそれぞれ各項目における最新のデータを集めた最新分の5時点とし、当該年次（年度）にデータが無い場合は直近調査年次（年度）のデータ、ないしは推定値を使用、それぞれの加工数値は原則として四捨五入により処理した。また、算定方法は、それぞれ各指標の個別実数を作成対象年次ごとに県全体の実数値を100.0として格差を縦に算出、次いで、都市別に50年を基準とした改善度指数を横に算出した。

3. 実数値による比較

（表－2～4）は、83指標のうち、人口1,000人当たりの交通事故発生件数、人口1,000人当たりの刑法犯認知件数、人口10,000人当たりの凶悪犯・粗暴犯認知件数の3つの指標について表示したものである。これらをもみても分かるように、個別実数の段階でも実数による都市間比較と、その改善状況を確認することができる。なお、改善状況については一般的に100.0より高いほど改善していることを示すが、指標によって逆の場合もある。

例えば、（表－2）の人口1,000人当たりの交通事故発生件数で具体的にみていくと、平成2年の下松市の実数値は5.00件ということで、県全体の実数値4.81件、都市平均値

表-2 道路交通事故発生件数 (人口1,000人当たり)

実数単位: 件

	50年		55年		60年		2年		4年		50年の指数値を100とした値		
	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	55年	60年	2年
下 関	4.96	95.5	4.68	108.1	4.93	110.2	5.01	104.2	5.31	105.0	94.3	99.4	101.0
宇 部	5.34	102.8	4.14	95.6	4.24	94.6	5.33	110.8	5.22	103.1	77.5	79.4	99.8
山 口	5.48	105.4	5.00	115.6	3.99	89.2	5.79	120.3	5.01	99.1	91.4	72.9	105.7
萩	5.84	112.5	4.97	114.9	3.89	86.8	4.41	91.6	4.25	84.0	85.1	66.5	75.4
徳 山	6.40	123.3	5.24	121.0	5.69	127.1	5.54	115.1	6.21	122.8	81.8	88.9	86.5
防 府	7.15	137.7	5.54	127.9	4.49	100.2	5.79	120.4	5.73	113.3	77.4	62.8	80.9
下 松	3.53	67.9	3.94	91.1	4.96	110.7	5.00	103.9	5.45	107.7	111.7	140.5	141.6
岩 国	6.46	124.4	5.30	122.4	5.61	125.2	4.58	95.3	5.77	114.1	81.9	86.7	70.9
小野田	4.73	91.0	3.71	85.6	4.51	100.7	4.28	89.0	5.14	101.6	78.4	95.4	90.6
光	4.12	79.3	2.65	61.3	4.10	91.6	4.79	99.6	6.03	119.2	64.4	99.6	116.3
長 門	4.83	93.0	2.97	68.7	3.74	83.5	4.67	97.2	4.79	94.7	61.6	77.4	96.7
柳 井	3.71	71.3	3.09	71.3	3.88	86.5	4.62	96.1	4.70	93.0	83.3	104.6	124.7
美 祢	5.45	105.0	3.33	76.9	4.95	110.5	3.61	75.2	4.53	89.6	61.0	90.7	66.3
新南陽	4.68	90.1	3.67	84.7	4.72	105.4	4.43	92.0	5.67	112.1	78.3	100.9	94.6
平均值	5.19		4.16		4.55		4.85		5.27				
標準偏差	1.01		0.93		0.60		0.59		0.56				
県	5.19	100.0	4.33	100.0	4.48	100.0	4.81	100.0	5.06	100.0	83.3	86.2	92.6

表-3 刑法犯認知件数 (人口1,000人当たり)

実数単位: 件

	50年		55年		60年		2年		4年		50年の指数値を100とした値		
	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	55年	60年	2年
下 関	13.60	121.3	10.79	125.9	11.43	109.5	13.05	137.2	15.35	149.0	79.3	84.0	95.9
宇 部	14.27	127.3	10.89	127.1	14.65	140.1	10.69	112.5	11.12	108.0	76.3	102.6	74.9
山 口	11.33	101.1	8.70	101.5	11.26	107.9	12.42	130.6	11.73	113.9	76.8	99.4	109.6
萩	6.05	54.0	7.77	90.6	10.01	95.9	6.68	70.2	6.58	63.9	128.4	165.5	110.4
徳 山	17.21	153.5	12.68	147.9	19.34	185.3	11.87	124.8	13.28	129.0	73.7	112.3	68.9
防 府	12.29	109.6	9.11	106.4	16.82	161.2	13.11	137.9	13.93	135.3	74.2	136.9	106.7
下 松	9.05	80.7	7.06	82.4	7.62	73.0	5.96	62.7	7.49	72.7	78.1	84.3	65.9
岩 国	20.91	186.5	13.87	161.9	13.82	132.5	15.66	164.7	12.75	123.9	66.4	66.1	74.9
小野田	17.60	157.0	9.35	109.1	6.73	64.5	6.07	63.8	10.67	103.6	53.1	38.2	34.5
光	6.68	59.6	5.88	68.6	7.90	75.7	5.21	54.8	8.25	80.2	88.0	118.2	78.0
長 門	8.64	77.0	5.48	63.9	6.50	62.3	7.01	73.7	6.47	62.9	63.4	75.3	81.2
柳 井	8.38	74.7	7.53	87.9	6.60	63.3	10.26	107.9	11.30	109.8	89.9	78.8	122.5
美 祢	5.94	53.0	7.25	84.6	5.99	57.4	5.70	60.0	6.21	60.3	122.0	100.8	96.0
新南陽	6.00	53.5	3.75	43.8	4.96	47.5	5.88	61.9	7.37	71.5	62.6	82.7	98.1
平均值	11.28		8.58		10.26		9.25		10.18				
標準偏差	4.69		2.70		4.30		3.41		2.97				
県	11.21	100.0	8.57	100.0	10.44	100.0	9.51	100.0	10.30	100.0	76.4	93.1	84.8

表-4 凶悪犯・粗暴犯認知件数（人口10,000人当たり）

実数単位：件

	50年		55年		60年		2年		4年		50年の指数値を100とした値		
	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	実数	格差	55年	60年	2年
下 関	7.16	114.8	5.91	125.4	3.98	111.5	2.82	105.8	2.78	123.1	82.5	55.5	39.3
宇 部	5.56	89.0	5.68	120.6	4.46	125.1	4.00	150.1	3.31	146.8	102.3	80.3	72.0
山 口	5.84	93.6	2.53	53.6	2.66	74.5	1.70	63.8	1.70	75.3	43.3	45.5	29.1
萩	6.45	103.3	5.40	114.6	5.12	143.6	3.16	118.6	1.58	70.0	83.8	79.4	49.0
徳 山	7.95	127.3	6.19	131.3	5.68	159.4	3.79	142.1	2.98	131.8	77.9	71.5	47.7
防 府	9.00	144.2	4.40	93.3	3.30	92.7	2.21	83.0	1.96	86.6	48.8	36.7	24.6
下 松	4.48	71.7	2.37	50.3	3.49	97.9	2.26	84.9	1.13	50.1	53.0	77.9	50.5
岩 国	11.16	178.8	7.11	150.8	5.10	143.0	4.20	157.6	4.84	214.4	63.7	45.7	37.6
小野田	10.50	168.2	5.80	123.1	3.67	102.8	2.58	96.9	1.72	76.2	55.3	34.9	24.6
光	5.94	95.2	3.27	69.3	2.03	57.0	0.63	23.6	1.47	65.1	55.0	34.2	10.6
長 門	6.95	111.4	1.81	38.5	3.27	91.7	2.68	100.6	1.15	50.9	26.1	47.0	38.6
柳 井	5.74	92.0	8.11	172.0	3.21	90.0	5.23	196.1	3.03	134.0	141.2	55.9	91.0
美 祿	8.42	134.9	4.56	96.7	2.38	66.7	1.53	57.3	1.02	45.1	54.1	28.2	18.1
新南陽	6.73	107.7	1.75	37.0	1.48	41.4	2.12	79.6	1.21	53.7	26.0	21.9	31.5
平均値	7.28		4.63		3.56		2.78		2.13				
標準偏差	1.86		1.95		1.18		1.17		1.06				
県	6.24	100.0	4.71	100.0	3.57	100.0	2.66	100.0	2.26	100.0	75.5	57.1	42.7

4.85件と比べると、若干上回る程度であるのに対して、その改善度指数は141.6と大きく悪化していることが分かる。また、(表-3)の刑法犯認知件数においては、相対的に都市間の格差が縮まりつつある中で、同じく平成2年の実数値と比較すると、下関市、山口市、防府市、岩国市といった県内でも、どちらかという人口が集積している都市が高い値を示しているのに対して、改善度指数では防府市、山口市、萩市、柳井市などの悪化が目につく。更に、(表-4)の凶悪犯・粗暴犯認知件数においては、各都市とも大きく改善している中で、依然として岩国市が他の都市と比べて相対的に高い値を示している。ざっと以上のような状況が読み取れる。このようにして、以下、安心度、快適度、利便度、余裕度、教育度の各指標についても、この実数段階で個々の指標の相対的な都市間比較が可能である。ただ、今回は「標準得点方式による比較」ということで実数比較は行わないことにした。

Ⅲ. 標準得点方式による算定

1. 算定方法と区分指数

$$\text{標準偏差} = \sqrt{\frac{\sum_{i=1}^N (A_i - A_t)^2}{N}}$$

A_i : 各都市の個別実数値
 A_t : 14都市の平均値 (単純平均)
 N : データの数 (=14)

$$\text{個別指数} = (-) \frac{\text{偏差} \times 20}{\text{標準偏差}} + 100.0 \quad (-) : \text{個別実数値が低い方が水準の向上を示す場合}$$

それでは、標準得点方式による算定であるが、簡単に説明すると、まず、各指標ごとに標準偏差を算出し、次に、各都市の個別実数値から14都市の平均値を差し引いた値、つまり、偏差をこの標準偏差で除し、その偏差値を比較する方法である。ただし、この個別指数を算出する際に、格差を明確にするため偏差を20倍にし、14都市の平均値を100.0として処理することにした。なお、この式の()内のマイナスであるが、個別実数値が低い方が水準の向上を示す場合にマイナスとなる。

次に、6つの区分指数の算出であるが、各区分ごとに指標間の均衡・調整を図るため、今回はそれぞれの指標の個別指数を生活への密着度合い、影響度合いを勘案して10倍、ないしは5倍にして加重平均により算出した。この倍率については、本来であれば、実生活との相関関係を示す生活連関表を作成して厳密に決めるべきであるが、今回は省略

表-5 安全度 (50年)

	交通事故 発生件数	火災り炎 人 員	消 防 費	消防人口	刑 法 犯 認知件数	凶悪犯・ 粗暴犯認 知 件 数	警察署・ 派出所数	区 分 指 数
下 関	104.6	78.9	91.5	82.2	90.1	101.3	85.2	92.3
宇 部	97.1	93.2	62.5	83.9	87.3	118.5	84.9	90.6
山 口	94.3	87.6	123.7	92.9	99.8	115.5	96.9	100.6
萩	87.1	104.4	66.6	97.7	122.3	108.9	94.3	96.1
徳 山	76.1	121.3	102.6	89.0	74.7	92.8	111.9	93.1
防 府	61.2	112.6	84.8	84.4	95.7	81.4	91.1	84.1
下 松	132.9	91.6	102.5	91.0	109.5	130.1	85.5	109.5
岩 国	74.9	71.2	108.4	92.8	59.0	58.2	88.8	78.5
小野田	109.1	103.4	92.8	86.9	73.1	65.3	96.9	92.1
光	121.2	71.7	96.7	97.7	119.6	114.4	78.0	102.6
長 門	107.2	133.5	100.3	145.3	111.3	103.5	128.1	117.1
柳 井	129.4	82.4	106.4	122.7	112.4	116.6	129.8	116.1
美 祢	94.9	121.3	122.2	140.9	122.8	87.7	145.7	116.3
新南陽	110.1	126.9	139.1	92.5	122.5	105.9	82.9	111.3
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-6 安心度 (50年)

	保育所 入所人員	児童福祉 施設数	児童 福祉費	老人福祉 施設数	老人 福祉費	老人家庭 奉仕員数	病院・診療 所数 (可住地面 積当たり)	病院・診療 所数 (人口当 たり)	薬局数	医師数	病床数	健康教育 参加者数
下 関	95.0	84.6	81.6	81.0	87.3	76.9	157.3	120.3	60.7	106.1	98.6	—
宇 部	82.1	81.0	72.1	91.3	81.6	94.7	115.1	113.3	116.5	160.0	114.3	—
山 口	77.2	86.4	86.2	98.6	88.3	81.0	84.6	102.8	84.0	92.6	103.6	—
萩	124.0	97.4	124.3	103.0	93.9	102.9	100.6	123.9	98.5	95.6	113.6	—
徳 山	80.8	96.2	104.2	91.3	142.9	108.6	99.7	123.9	105.8	105.0	105.2	—
防 府	108.7	105.3	121.3	87.5	79.8	91.7	97.3	106.3	80.1	107.6	102.9	—
下 松	87.6	121.7	120.1	121.5	121.6	102.6	102.2	79.3	107.7	83.6	79.5	—
岩 国	73.1	63.9	64.6	105.2	82.5	83.7	111.4	95.7	126.2	93.7	94.1	—
小野田	98.6	101.7	95.6	92.5	129.7	110.5	105.9	103.9	95.6	106.4	128.2	—
光	106.0	92.5	97.2	122.5	98.3	112.3	92.0	95.3	120.3	84.7	85.6	—
長 門	110.8	121.7	94.8	101.9	86.5	90.2	93.3	112.1	129.1	103.8	97.0	—
柳 井	145.5	131.5	136.8	88.7	80.3	89.4	80.9	108.6	116.0	106.4	140.9	—
美 祢	122.0	133.9	109.8	150.1	107.5	160.0	67.4	86.4	80.6	77.6	66.3	—
新南陽	88.8	82.2	91.5	64.9	119.9	94.2	92.3	58.2	79.1	76.1	70.2	—
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
	成人病集 団検診受 診者数	普 通 死 亡 率	乳 児 死 亡 率	人工死産 割 合	成 人 病 死 亡 者 数	婚 姻 件 数	離 婚 件 数	自 殺 者 数	公 害 苦 情 等 受 理 件 数	降 下 ば い じ ん 量	区 分 指 数	
下 関	66.9	114.2	115.1	95.1	111.0	101.3	78.4	97.7	113.5	—	97.5	
宇 部	101.4	111.6	121.6	92.0	111.6	123.1	59.9	104.2	126.8	—	107.9	
山 口	80.7	98.6	107.1	118.5	97.0	90.0	117.0	104.2	91.6	—	95.0	
萩	150.3	73.1	86.8	90.6	69.1	84.7	105.3	123.7	118.3	—	101.9	
徳 山	108.8	113.5	112.4	100.8	108.6	124.0	75.9	84.7	82.0	—	104.6	
防 府	123.7	100.0	109.9	129.6	95.9	112.1	111.2	97.7	99.4	—	102.7	
下 松	100.7	131.0	111.8	96.4	127.0	110.8	108.6	107.4	123.4	—	106.3	
岩 国	72.0	122.9	92.9	101.3	128.7	103.7	74.2	110.7	112.8	—	97.7	
小野田	94.0	79.7	101.8	80.0	78.1	96.2	103.6	78.2	83.3	—	99.0	
光	98.2	95.1	91.1	92.8	56.0	88.3	97.7	94.4	117.6	—	95.4	
長 門	98.4	91.9	120.6	125.6	95.3	72.2	116.2	136.7	108.7	—	106.0	
柳 井	108.5	69.9	40.0	62.7	100.7	73.6	125.4	48.9	70.7	—	95.9	
美 祢	93.3	72.2	92.2	135.4	104.1	78.0	128.8	100.9	59.0	—	96.6	
新南陽	103.2	126.3	97.3	79.1	116.9	142.1	97.7	110.7	92.9	—	93.3	
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0	

表-7 快適度 (50年)

	人口密度	社会 教育費	文化財 指定件数	スポーツ 施設数	体 育 施設費	老人クラ ブ加入 者 数	書籍・雑 誌年間販 売 額	都市公園 ・緑地面 積	ごみ衛生 処理率	し尿衛生 処理率
下 関	142.4	87.6	89.4	76.1	98.0	84.5	98.8	98.0	125.2	84.1
宇 部	115.5	100.4	87.2	82.1	91.9	68.8	106.1	133.1	75.5	121.6
山 口	84.0	88.0	121.1	98.8	90.2	103.8	112.9	101.3	70.0	96.1
萩	89.5	93.5	146.4	94.7	92.2	135.0	92.0	107.9	94.6	102.5
徳 山	85.2	108.3	84.1	93.7	94.1	99.6	122.3	131.2	102.0	117.4
防 府	101.3	96.9	118.3	91.4	99.1	128.9	154.6	85.6	79.2	117.8
下 松	104.7	85.6	84.7	90.3	93.7	75.1	83.1	84.2	89.6	116.0
岩 国	97.3	93.0	103.4	87.1	92.5	89.2	93.3	107.0	94.0	90.1
小野田	132.5	88.1	82.2	98.6	96.0	117.2	78.4	137.9	127.3	75.3
光	116.3	110.9	86.9	99.8	90.1	118.3	84.8	84.2	104.3	100.6
長 門	76.4	90.3	130.1	115.0	95.1	109.1	97.6	80.4	142.6	119.0
柳 井	84.2	89.5	95.0	110.2	160.0	79.1	112.5	80.4	94.1	72.3
美 祢	71.3	101.1	91.0	160.0	94.6	109.5	80.1	87.0	90.0	61.4
新南陽	99.5	166.8	80.3	99.2	101.4	81.9	83.5	81.8	111.6	125.6
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	水 道 普及率	公共下水 道普及率	水 洗 化 割 合	家 屋 床 面 積	家庭使用 電 力 量	テレビ 放送受信 契約数	カラ ー 放送受信 契約数	生活道路 舗 装 率	区 分 指 数	
下 関	126.7	123.2	121.2	58.9	90.5	108.7	117.9	55.8	98.4	
宇 部	121.4	128.4	124.3	88.8	95.9	79.3	90.3	97.9	102.3	
山 口	80.0	86.0	88.3	95.5	54.6	84.5	89.7	114.4	91.3	
萩	107.9	86.0	88.3	87.1	110.3	83.5	66.7	99.8	98.7	
徳 山	96.9	143.4	153.8	84.9	113.8	103.1	104.2	102.5	107.3	
防 府	83.1	86.0	88.3	96.7	101.3	121.0	123.1	98.4	103.1	
下 松	113.5	86.0	88.3	98.2	110.3	95.3	107.1	129.6	98.2	
岩 国	107.9	86.0	88.3	87.6	135.4	72.3	83.4	85.8	95.9	
小野田	129.3	86.0	88.3	89.1	88.7	108.6	119.6	116.1	104.4	
光	102.3	86.0	88.3	105.7	103.1	92.2	91.1	138.8	102.0	
長 門	72.9	123.5	117.4	121.7	131.8	156.2	129.8	99.3	108.6	
柳 井	61.4	86.0	88.3	120.3	85.1	93.5	72.7	81.5	91.0	
美 祢	85.5	86.0	88.3	136.8	79.7	100.9	80.0	85.5	91.7	
新南陽	111.3	107.4	88.3	128.5	99.5	101.3	124.3	94.7	106.8	
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

表-8 利便度 (50年)

	公民館数	図書館蔵書数	図書館外貸出冊数(個人)	小売業商店数(可住地面積当たり)	小売業商店数(人口当たり)	小売業売場面積	飲食店数	金融機関店舗数	乗用自動車普及率	電話普及率	ハイ・タク事業車両状況	区分指数
下関	77.6	97.4	103.9	148.3	88.1	71.7	106.9	143.2	65.9	125.1	115.7	104.6
宇部	76.4	92.1	97.8	113.0	98.6	93.3	119.1	90.3	98.2	111.9	105.4	99.8
山口	100.7	160.0	124.1	76.1	82.8	88.3	97.3	72.1	101.6	108.8	85.9	97.9
萩	89.9	99.3	112.0	106.8	140.1	120.0	100.0	115.3	60.6	103.7	119.7	103.3
徳山	130.6	93.1	113.4	87.9	88.9	96.7	135.2	91.6	113.4	117.0	124.0	112.0
防府	73.2	92.9	63.1	88.8	82.4	98.3	85.2	88.9	109.9	76.2	75.6	84.9
下松	114.5	91.4	141.3	108.0	85.8	88.3	83.3	107.0	115.1	104.2	80.3	101.4
岩国	88.4	95.2	94.1	115.9	95.9	115.0	138.7	118.1	110.4	114.6	120.1	111.6
小野田	82.0	94.9	85.6	102.2	89.0	75.0	83.7	104.2	104.1	86.9	87.1	90.7
光	116.0	94.6	114.3	103.6	90.5	111.7	71.8	97.2	131.0	106.3	62.0	99.0
長門	104.8	90.5	75.1	101.1	140.5	138.3	109.4	126.5	77.6	100.0	99.0	104.7
柳井	130.9	89.6	85.5	80.7	128.6	131.7	106.4	74.9	82.4	116.2	94.6	101.6
美祢	127.1	110.9	106.7	61.7	103.6	88.3	87.4	73.5	119.3	46.3	133.6	96.8
新南陽	87.8	88.6	83.2	106.0	85.1	96.7	75.5	97.2	110.5	83.0	97.0	91.9
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

することにした。

その結果として、昭和50年分について各区分指数を算出したものが(表-5~10)である。ただし、この段階において、特定の都市の個別指数が非常に低かったり、逆に、高過ぎる場合は、例えば、(表-6)の安心度における老人家庭奉仕員数の美祢市や乳児死亡率の柳井市の指数のように下限を40.0、上限を160.0として調整することにした。以下、同様にして、55年、60年、平成2年、直近分についても個別指数を算出した。

表-9 余裕度 (50年)

	昼間人口 比 率	市町村民 所 得	家 計 所 得 (個人企業 を含む)	雇 用 者 所 得	課税対象 所得額	高 額 所得者	商 業 年間販売 額
下 関	101.1	100.4	90.3	95.3	112.3	115.4	116.1
宇 部	110.3	114.8	110.1	111.7	95.9	109.6	117.3
山 口	83.6	106.9	130.4	122.8	100.2	91.9	99.2
萩	99.7	82.8	82.0	91.5	70.0	119.0	100.5
徳 山	132.9	120.5	125.8	110.7	128.7	132.6	157.4
防 府	79.4	98.0	97.9	91.7	100.1	101.7	93.7
下 松	99.7	117.9	118.4	118.2	122.0	75.9	97.1
岩 国	100.6	95.9	99.3	111.0	114.3	120.7	93.1
小野田	63.2	92.1	93.1	76.9	86.8	70.3	83.0
光	82.1	119.8	105.0	129.9	118.2	87.8	80.5
長 門	120.1	81.8	85.5	78.4	72.5	91.8	92.5
柳 井	96.4	70.2	61.0	82.5	76.8	94.8	108.1
美 祢	91.5	63.4	74.6	59.7	76.4	66.2	73.2
新南陽	139.5	135.5	126.6	119.7	125.8	122.3	88.2
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	普通会計 歳出額	持家世帯 割 合	用 途 別 地 価 (住宅地)	就 業 率 (常住地従 業者)	雇 用 者 比 率	女 子 失 業 率	区 分 指 数
下関	96.7	68.2	82.0	78.0	115.1	83.9	95.0
宇部	81.4	87.5	111.9	90.3	108.4	91.0	103.7
山口	81.5	92.5	115.9	107.6	91.1	121.9	103.5
萩	87.6	111.4	91.4	87.7	74.9	89.7	92.0
徳山	126.6	75.6	74.6	98.5	108.5	106.0	114.9
防府	88.3	113.6	108.1	102.7	101.7	101.0	98.0
下松	92.5	97.7	94.7	92.9	120.5	103.1	105.0
岩国	89.9	77.7	56.3	85.1	112.4	53.0	93.1
小野田	92.6	107.3	120.7	96.3	124.5	74.3	90.4
光	93.9	99.6	98.2	72.5	115.8	97.3	100.4
長門	90.4	132.5	116.9	127.3	61.5	121.1	99.5
柳井	102.7	123.5	115.5	111.1	69.1	126.9	93.5
美祢	119.7	131.0	130.4	153.9	80.3	122.7	94.3
新南陽	156.2	81.8	83.5	96.2	116.2	108.1	116.6
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-10 教育度 (50年)

	幼稚園 充足率	幼稚園 教員数	小・中学 校数	小・中学 校児童 生徒数 (教 員当 たり)	小・中学 校児童 生徒数 (学 級当 たり)	公立小 中学校 教育 費	小・中学 校長期 欠席割 合	高等学 校進 学率	公立小 中学校 校舎 面積	公立小 中学校 校舎 面積 割合	公立小 中学校 屋内 運動場 面積	公立小 中学校 水泳 プール 保有 率	区 分 指 数
下 関	92.4	85.0	76.8	66.3	69.4	115.3	93.6	65.5	80.2	110.5	72.9	116.5	87.1
宇 部	104.2	101.9	78.1	77.5	81.4	91.3	66.0	99.1	96.0	87.8	79.7	125.2	93.9
山 口	123.6	131.9	94.4	101.4	93.6	88.2	124.6	128.5	94.8	85.2	110.8	120.0	111.5
萩	76.2	70.5	107.4	117.0	110.3	99.5	97.0	81.0	93.8	102.4	101.8	69.8	90.1
徳 山	103.7	106.0	106.9	107.3	110.1	107.2	79.8	76.3	97.0	78.3	97.2	89.5	96.6
防 府	109.4	115.5	87.9	89.8	87.0	119.0	124.6	117.4	98.8	58.3	98.9	69.9	98.6
下 松	131.4	126.2	87.4	87.2	89.8	96.0	83.3	113.2	89.4	106.2	86.5	117.7	105.3
岩 国	133.4	133.1	100.6	102.5	104.5	96.1	114.3	105.5	86.9	115.8	80.8	81.8	106.5
小野田	110.3	92.1	92.1	95.4	91.1	93.3	128.1	95.8	101.8	117.6	95.5	116.0	102.1
光	79.4	78.4	92.2	94.9	98.4	81.5	121.2	104.5	84.9	103.2	104.0	78.2	91.4
長 門	79.3	83.1	116.0	118.1	115.8	157.6	114.3	120.2	117.5	74.0	115.4	94.8	105.9
柳 井	65.4	75.3	128.2	126.2	127.5	92.3	93.6	76.8	107.6	116.4	101.2	83.5	95.5
美 祢	95.7	99.5	151.1	141.0	145.7	92.9	79.8	85.0	160.0	135.7	159.0	119.5	118.6
新南陽	95.6	101.5	80.9	75.5	75.5	70.0	79.8	131.0	87.5	108.7	96.1	117.7	96.9
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 総合指数の算出と結果比較

そして、最後に、それぞれ6つの区分指数を平均して総合指数を算出したものが(表-11~15)である。

そこで、これらの区分指数と総合指数による都市間の比較であるが、各指標ごとに個々に比較してみても中々判別し難いことから、加工して比較することにした。まず、区分別の比較であるが、各区分指数を、それぞれ95.0未満を△、95.0以上105.0未満を○、105.0以上を◎の3つに分けて表示したものが(表-16)である。その結果、例えば、安全度では、5時点全て「◎」の都市は長門市、美祢市、次いで、4時点で「◎」が柳井市、新南陽市となっており、この4つの都市が山口県内では安全度で優位の「安全型都市」、一方、下関市、宇部市、防府市、岩国市は5時点全てで「△」、徳山市が4時点で「△」となっており、この5都市が相対的に安全度で劣るということになる。以下、安心度では宇部市と長門市、快適度では長門市と小野田市、利便度では徳山市と岩国市、余裕度では徳山市と新南陽市、光市、教育度では美祢市と長門市、下松市などが、それぞれの区分で相対的に優れた都市ということになり、それぞれ各都市の大体の特性が浮き出てくる。

表-11 総合指数 (50年)

	安全度	安心度	快適度	利便度	余裕度	教育度	総合指数
下 関	92.3	97.5	98.4	104.6	95.0	87.1	95.8
宇 部	90.6	107.9	102.3	99.8	103.7	93.9	99.7
山 口	100.6	95.0	91.3	97.9	103.5	111.5	100.0
萩	96.1	101.9	98.7	103.3	92.0	90.1	97.0
徳 山	93.1	104.6	107.3	112.0	114.9	96.6	104.8
防 府	84.1	102.7	103.1	84.9	98.0	98.6	95.2
下 松	109.5	106.3	98.2	101.4	105.0	105.3	104.3
岩 国	78.5	97.7	95.9	111.6	93.1	106.5	97.2
小野田	92.1	99.0	104.4	90.7	90.4	102.1	96.5
光	102.6	95.4	102.0	99.0	100.4	91.4	98.5
長 門	117.1	106.0	108.6	104.7	99.5	105.9	107.0
柳 井	116.1	95.9	91.0	101.6	93.5	95.5	98.9
美 祢	116.3	96.6	91.7	96.8	94.3	118.6	102.4
新南陽	111.3	93.3	106.8	91.9	116.6	96.9	102.8
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-12 総合指数 (55年)

	安全度	安心度	快適度	利便度	余裕度	教育度	総合指数
下 関	87.8	96.9	93.2	105.0	94.8	91.0	94.8
宇 部	91.5	107.2	103.9	98.2	94.0	95.6	98.4
山 口	94.0	94.5	90.0	96.6	99.2	106.1	96.7
萩	91.6	93.7	101.4	103.1	89.9	86.1	94.3
徳 山	95.5	106.2	108.8	115.1	113.5	97.7	106.1
防 府	85.3	98.4	109.4	89.0	97.5	98.0	96.3
下 松	100.7	105.1	98.3	97.4	98.5	107.5	101.3
岩 国	78.8	95.6	93.2	112.4	91.1	103.8	95.8
小野田	96.1	98.1	109.0	88.7	91.7	95.6	96.5
光	107.3	99.2	100.8	94.3	105.1	99.5	101.0
長 門	124.4	105.7	106.8	103.2	105.5	104.9	108.4
柳 井	114.5	104.0	90.1	102.8	99.1	97.4	101.3
美 祢	122.3	100.4	96.0	100.2	104.4	122.6	107.7
新南陽	110.5	94.9	98.9	93.6	115.7	93.8	101.2
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-13 総合指数 (60年)

	安全度	安心度	快適度	利便度	余裕度	教育度	総合指数
下 関	90.3	97.2	93.9	106.2	96.0	92.8	96.1
宇 部	89.9	108.3	103.5	95.3	95.1	96.3	98.1
山 口	102.3	96.1	90.9	96.9	98.0	103.3	97.9
萩	98.1	92.4	103.6	103.8	87.4	89.7	95.8
徳 山	81.7	108.0	103.2	113.6	110.3	100.2	102.8
防 府	94.0	95.5	106.0	90.4	97.6	94.8	96.4
下 松	96.9	102.4	96.6	94.9	102.9	110.7	100.7
岩 国	85.6	93.1	96.0	111.6	96.9	98.6	97.0
小野田	101.6	99.1	112.2	92.1	93.7	95.1	99.0
光	103.2	95.3	99.6	91.7	107.0	98.6	99.2
長 門	115.3	106.0	109.9	100.3	99.0	106.7	106.2
柳 井	118.6	109.0	90.4	101.3	101.7	95.8	102.8
美 祢	110.6	99.8	93.3	99.9	105.0	117.1	104.3
新南陽	112.2	97.8	100.8	101.8	109.6	99.7	103.7
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-14 総合指数 (2年)

	安全度	安心度	快適度	利便度	余裕度	教育度	総合指数
下 関	91.1	97.2	92.9	105.9	93.3	93.1	95.6
宇 部	80.4	107.7	100.6	94.6	94.2	94.8	95.4
山 口	84.1	96.3	92.5	96.0	99.1	99.5	94.6
萩	102.9	98.1	101.9	103.5	86.5	88.4	96.9
徳 山	89.2	105.1	102.6	112.4	108.5	101.9	103.3
防 府	82.6	94.5	105.0	92.4	98.5	93.0	94.3
下 松	101.1	98.6	100.0	94.8	97.5	108.4	100.1
岩 国	90.5	98.4	94.2	108.2	99.8	100.9	98.7
小野田	110.0	98.6	107.3	90.8	91.0	87.4	97.5
光	105.6	103.2	103.6	94.1	107.5	96.8	101.8
長 門	116.9	104.9	106.7	104.3	103.5	109.0	107.6
柳 井	100.6	103.3	91.9	102.4	103.4	102.1	100.6
美 祢	130.5	98.5	92.5	99.8	103.1	121.7	107.7
新南陽	114.6	95.8	107.3	101.0	113.9	102.9	105.9
平均値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-15 総合指数 (最新)

	安全度	安心度	快適度	利便度	余裕度	教育度	総合指数
下 関	85.1	98.6	90.9	104.9	93.9	93.8	94.5
宇 部	89.6	105.6	100.2	98.4	94.9	96.2	97.5
山 口	95.7	93.8	92.4	96.9	101.8	102.2	97.1
萩	113.6	99.9	100.4	102.8	83.4	87.4	97.9
徳 山	84.1	103.6	101.7	114.4	109.0	103.9	102.8
防 府	86.2	94.6	103.1	93.0	99.0	101.3	96.2
下 松	99.9	99.0	104.3	95.5	102.9	100.4	100.3
岩 国	81.7	100.1	95.9	107.2	98.2	100.0	97.2
小野田	101.3	94.4	108.2	89.0	93.5	91.3	96.3
光	96.8	103.1	107.2	94.7	107.3	96.4	100.9
長 門	119.9	105.4	105.4	101.6	99.2	108.0	106.6
柳 井	118.7	104.0	90.3	102.2	102.2	103.4	103.5
美 祿	129.7	99.8	96.0	99.2	101.7	123.1	108.3
新南陽	97.7	98.2	103.6	100.1	112.6	92.7	100.8
平均值	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表-16 区分別推移

区分	安全度					安心度					快適度					利便度					余裕度					教育度				
	50年	55年	60年	2年	最新	50年	55年	60年	2年	最新	50年	55年	60年	2年	最新	50年	55年	60年	2年	最新	50年	55年	60年	2年	最新	50年	55年	60年	2年	最新
都市																														
下 関 市	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	◎	◎	◎	◎	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△
宇 部 市	△	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	△	△	△	△	○	△	△	△	△
山 口 市	○	△	○	△	○	○	△	○	△	○	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
萩 市	○	△	○	○	◎	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
徳 山 市	△	○	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
防 府 市	△	△	△	△	△	○	○	△	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△
下 松 市	◎	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
岩 国 市	△	△	△	△	△	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
小野田市	△	○	○	◎	○	○	○	○	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	△	△
光 市	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	△	△	△	△	○	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	○
長 門 市	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
柳 井 市	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
美 祿 市	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	△	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
新南陽市	◎	◎	◎	◎	△	△	△	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	△	△	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	○	○	△

※ 95.0未満=△、95.0~105.0=○、105.0以上=◎

次に、それぞれの都市における年代による変動をみるため、14都市の昭和50年と最新分を図式したものが（図-1～14）である。

以下、14都市の動きをみていくと、（図-1）の下関市については、区分指数は、安全度、快適度が低下しているのに対して、教育度は上昇、また、総合指数では平均値を下回ってはいるものの、ほぼ同水準を維持している。

（図-2）の宇部市については、区分指数は、余裕度が低下しているのに対して、残りの5指数はほぼ同水準を保っている。また、総合指数では平均値を下回り、若干低下している。

（図-3）の山口市については、区分指数は、安全度、教育度が低下しているのに対して、残りの4指数はほぼ同水準となっている。また、総合指数は平均値を下回り、低下している。

（図-4）の萩市については、区分指数は、余裕度、教育度が低下しているのに対して、安全度は大きく上昇している他、残りの3指数は同水準を維持している。また、総合指数も平均値を下回っているものの、同水準を維持している。（図-5）の徳山市については、区分指数は、安全度、快適度、余裕度が低下しているのに対して、教育度が上昇している他、安心度が同水準、利便度も高水準を維持しており、総合指数は若干低下しているものの、平均値を上回っている。

（図-6）の防府市については、区分指数は、安心度が大きく低下している他、利便度は上昇しているものの、依然として低水準であり、残りの4指数も同水準にとどまっている。しかし、総合指数は、平均値を下回っているものの、若干上昇となっている。

（図-7）の下松市については、区分指数は、快適度以外は全て低下しているが、利便度を除く5指数はほぼ平均値に近い値を保っており、そのため、総合指数はかなりの低下となっているものの、平均値を上回るなど、バランスの取れた都市といえる。

（図-8）の岩国市については、区分指数は、利便度、教育度が低下しているのに対して、余裕度が上昇、残りの3指数はほぼ同水準を維持している。そのため、総合指数は平均値を下回ってはいるものの、同水準となっている。

（図-9）の小野田市については、区分指数は、安全度、快適度が上昇しているのに対して、安心度、教育度は低下している。また、総合指数は平均値を僅かながら下回ってはいるものの、ほぼ同じ水準を維持している。

（図-10）の光市については、区分指数は、安全度、利便度が低下しているのに対して、残りの4指数は上昇しており、そのため、総合指数も平均値を上回るなど、比較的安定した都市といえる。

（図-11）の長門市については、区分指数は、安全度、教育度が高水準を維持しており、残りの4指数もほぼ平均値、あるいはそれ以上の値を示している。そのため、総合指数も高水準を保っており、県内では最も安定している都市となっている。

（図-12）の柳井市については、区分指数は、安全度が高水準、快適度が低水準を維

持している。また、快適度を除く5指数が上昇となっている。そのため、総合指数も平均値を上回り、大きな上昇となっている。

(図-13)の美祢市については、区分指数は、安全度、教育度が高水準を維持している中で、安全度が大きく上昇している。また、残りの4つの指数も上昇しており、県内では最も生活水準が向上した都市となっている。

(図-14)新南陽市については、区分指数は、安心度、利便度で上昇しているのに対して、安全度が大きく低下しているのを始め、残りの3指数も相対的に低下している。そのため、総合指数は平均値を上回ってはいるものの、若干低下している。

以上が50年と最近を比較した都市別動向である。

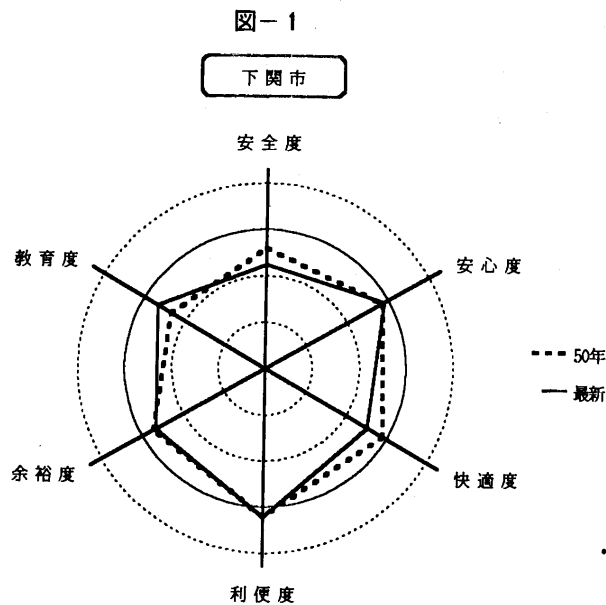


图-2

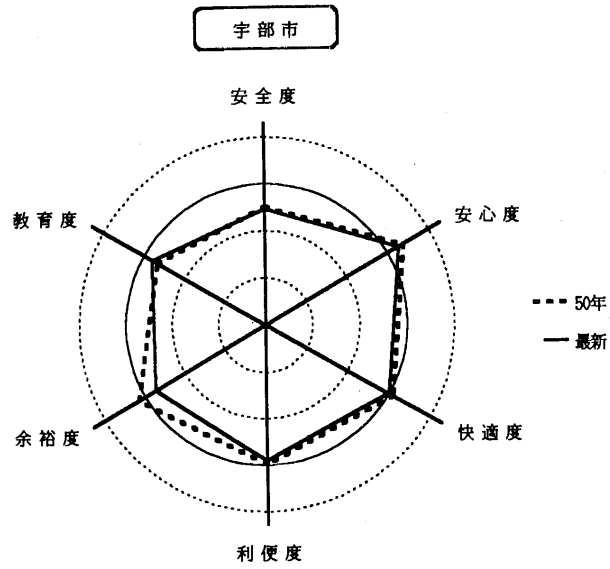


图-3

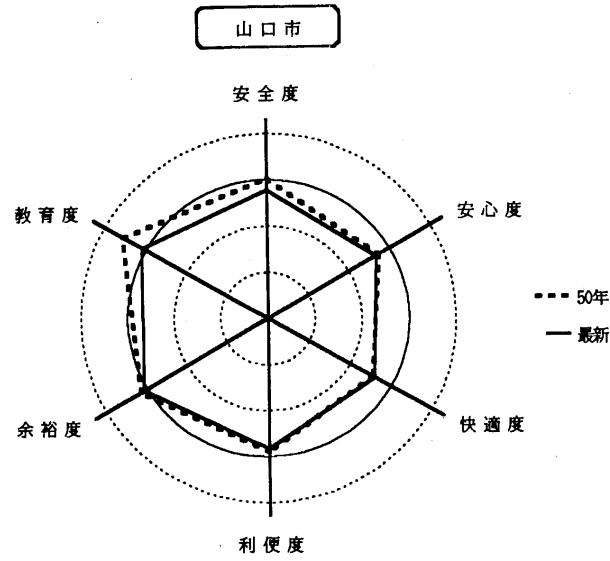


图-4

萩市

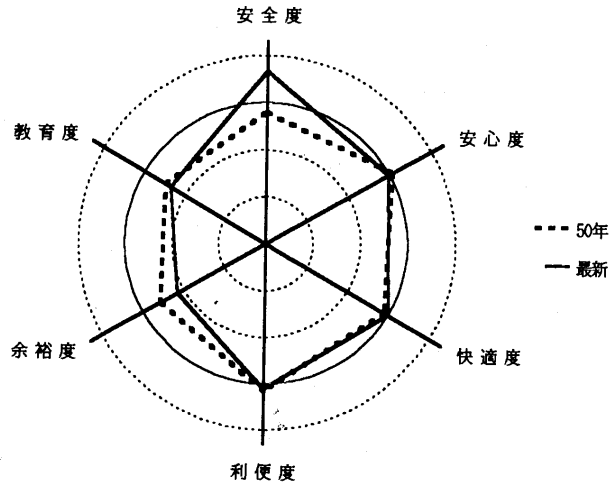


图-5

德山市

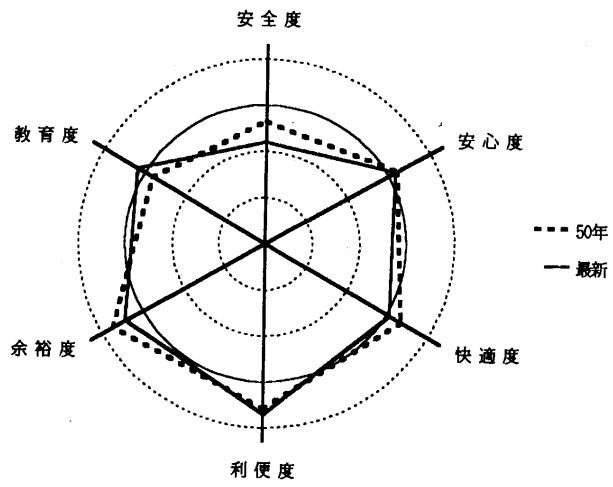


图-6

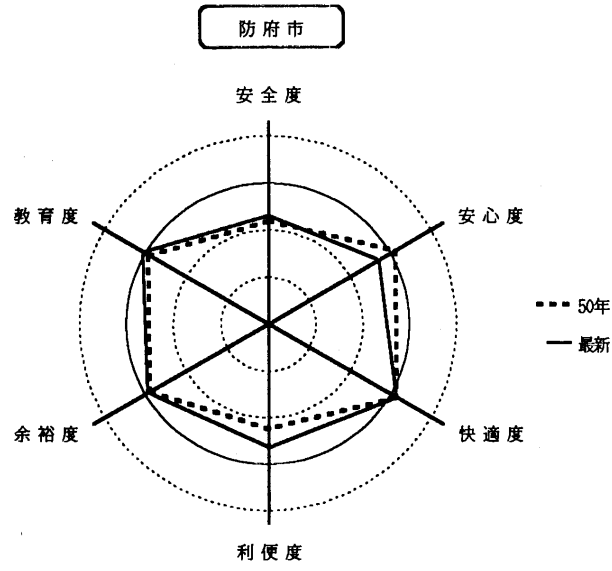


图-7

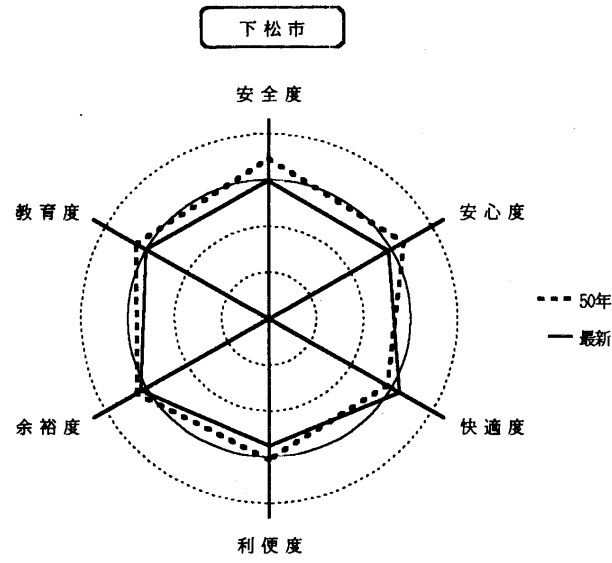


图-8

岩国市

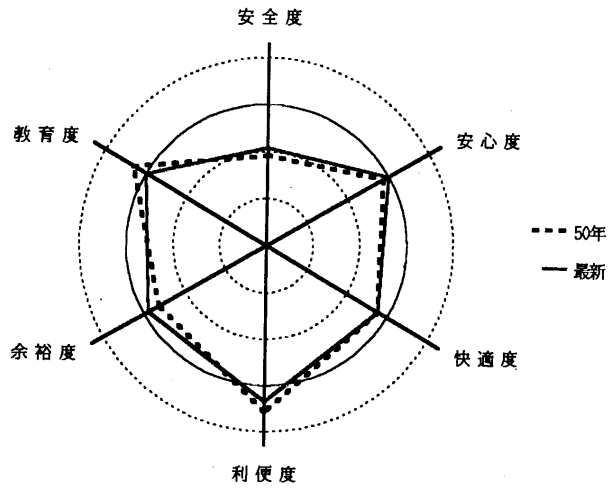


图-9

小野田市

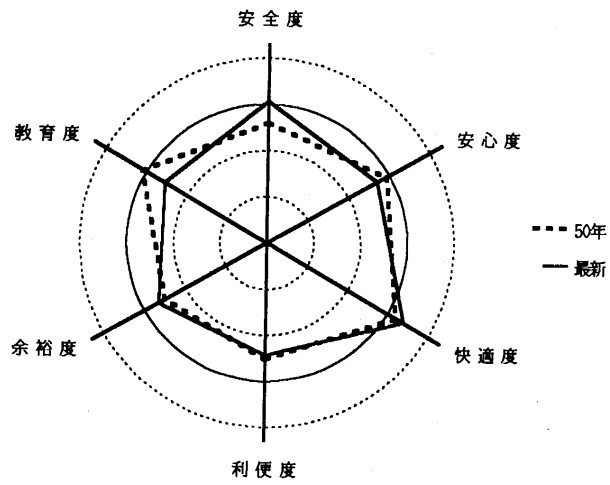


図-10

光市

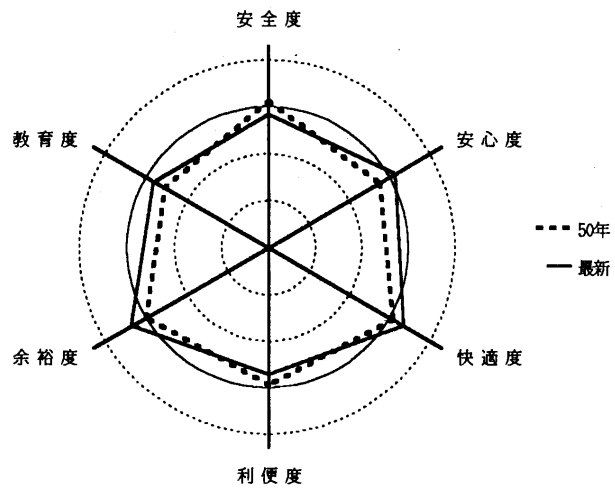


図-11

長門市

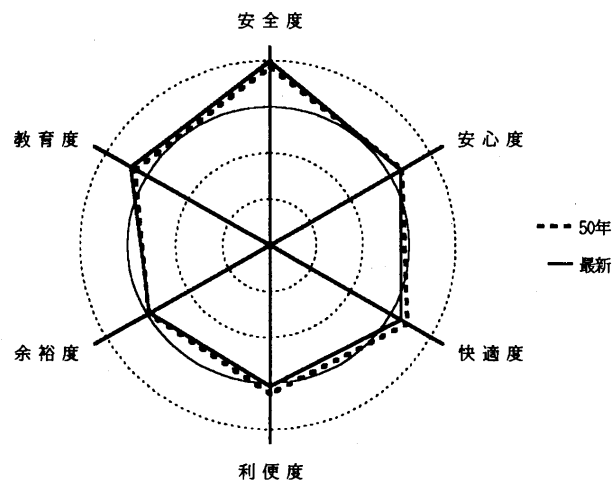


图-12

柳井市

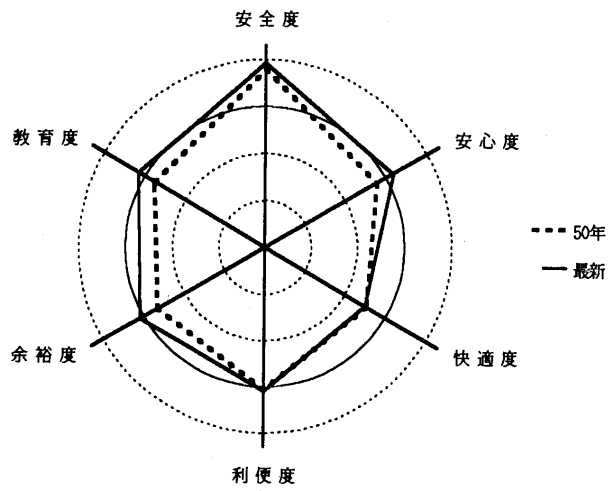


图-13

美祿市

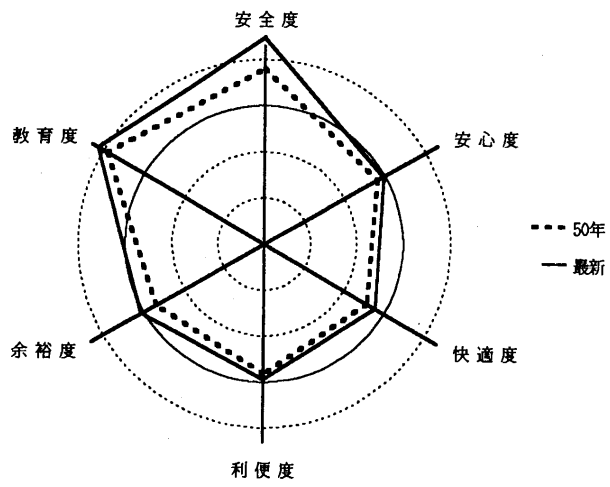
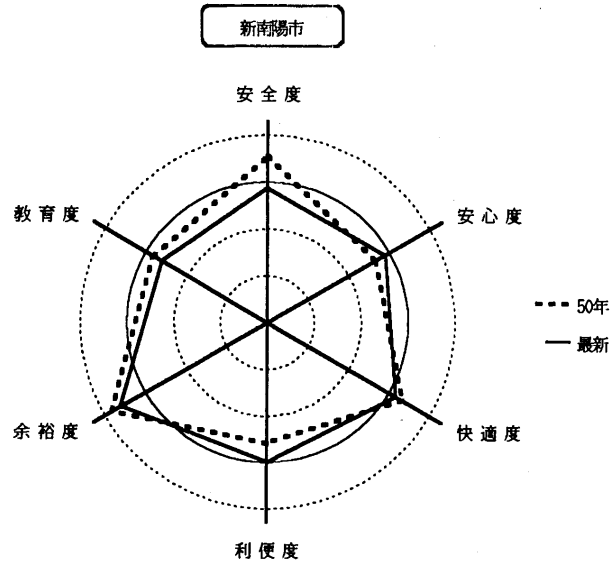


図-14



IV. 総合ランキング

そして、最後に、総合指数を都市別に時系列ランキングを出したものが（表-17）である。その結果、山口県内14都市のうち、長門市、美祢市の2都市がほぼ1～2位を独占、次いで、徳山市、下松市、新南陽市、光市といった周南地域の各都市が上位を占める一方で、防府市や下関市が下位に低迷していることが読み取れる。したがって、結果を見る限りにおいては、14都市のうちでも人口集積が小さい長門市、美祢市の2都市が「住みよさ」、「暮らしやすさ」で優位にあり、県下第一の人口集積を誇る下関市が一番劣るという結果となった。

また、昭和50年と最新分との順位の変動をみていくと、萩市、光市、柳井市、美祢市の4都市が3つ以上ランクアップしており、都市間比較では相対的に「住みよい」、「暮らしやすい」都市への成長をうかがわせるのに対して、山口市、下松市は、逆に、順位が3つ以上落ち込んでおり、相対的に後退しているということになる。

ただし、ここで注意しなければならないことは、この順位はあくまで県内14都市を対象にしたものであって、14都市間における水準が高くても、県全体や全国と比べた水準とは異なっており、この順位にはあまり深い意味が無いということである。したがって、順位にこだわらず、あくまで参考程度にとどめておいて頂きたい。というのも、順位は採用したデータの範囲内での「住みよさ」、「暮らしやすさ」の相対的比較の結果であって、採用する指標次第で、たとえ僅かでも順位は変動する可能性が高くなるからである。

表-17 都市別・採用年次別ランキング

昭和50年	55年	60年	平成2年	最新分
1位 長門市	1位 長門市	1位 長門市	1位 美祢市	1位 美祢市
2位 徳山市	2位 美祢市	2位 美祢市	2位 長門市	2位 長門市
3位 下松市	3位 徳山市	3位 新南陽市	3位 新南陽市	3位 柳井市
4位 新南陽市	4位 下松市	4位 徳山市	4位 徳山市	4位 徳山市
5位 美祢市	4位 柳井市	4位 柳井市	5位 光市	5位 光市
6位 山口市	6位 新南陽市	6位 下松市	6位 柳井市	6位 新南陽市
7位 宇部市	7位 光市	7位 光市	7位 下松市	7位 下松市
8位 柳井市	8位 宇部市	8位 小野田市	8位 岩国市	8位 萩市
9位 光市	9位 山口市	9位 宇部市	9位 小野田市	9位 宇部市
10位 岩国市	10位 小野田市	10位 山口市	10位 萩市	10位 岩国市
11位 萩市	11位 防府市	11位 岩国市	11位 下関市	11位 山口市
12位 小野田市	12位 岩国市	12位 防府市	12位 宇部市	12位 小野田市
13位 下関市	13位 下関市	13位 下関市	13位 山口市	13位 防府市
14位 防府市	14位 萩市	14位 萩市	14位 防府市	14位 下関市

V. 「住みよさ」、「暮らしやすさ」とは

そこで、「住みよさ」、「暮らしやすさ」というか、生活における真の「豊さ」とは一体どのようなものかということについて考えてみたい。

欧米では、住民の生活に根ざした住宅・社会資本整備、社会保障・社会福祉が進んでおり、このような整備をするのは当然の権利という考え方、思想が定着している。一方、日本では明治以降、戦後もそうであるが、いわゆる富国政策や傾斜生産方式からもうかがえるように、どちらかというと産業振興に重点を置いた政策が長年主流を占めてきた。しかし、企業の求める「豊さ」は、その目的からして、住民が求める「豊さ」とは本質的に異なるものであって、住民に根ざした住宅・社会資本整備、社会保障・社会福祉の充実にはまだまだ立ち遅れているといわざるを得ない。特に、福祉政策などは救貧救済的性格から脱し切れていないわけで、これに対して、最近では、住民の「豊さ」に対する観念、生活に対する価値観は大きく様変わりしてきている。「豊さ」といえば、一昔前までは、もっぱら「所得」に代表されるように経済的「豊さ」を重視してきたが、最近では「自然環境」や「福祉政策」、果ては「個人の人権」まで含まれるようになってきている。つまり、「モノ」や「金」という量的「豊さ」に対して、その代償として犠牲にしてきた事柄への評価が大きく高まってきたためである。

話は若干逸れるが、この研究レポートを発表したところ「県下で一番の人口集積のある下関市がびりというのは怪しからん、当然一番にしてしかるべきだ」というお叱りを受けた。これなども一般的な観念からすれば、もっともだといえる。確かに、人口集積のある都市ほど都市機能は充実しており、生活しやすい点が多いといえる。例えば、公

的施設などは各都市が同様の施設を必ずといって良いほど整備しているが、中でも、大都市はいろんなイベントに使える便利で合理的な施設を効率的、合理的に配置しており、人口当たりの施設数は少なくても済むのに対して、人口そのものが少ない小さな都市では、たとえ隣に便利な施設があっても同様の施設を設置しようとするが、大きな都市と比べて効率の劣るものにならざるを得ない。ところが、今回の試算は、これを同等に評価したため、結果として人口当たりの数値は小都市の方が有利になってくると考えられる。なぜなら、「住みよさ」、「暮らしやすさ」を単純に量的な側面から捉えており、質的な側面が欠けているからである。

その意味では、生活の「豊さ」についても、日常の社会生活、社会環境の中で、もっと質的な変化を考慮に入れた測定が要求されてくる。例えば、首都圏の生活では、地方と比べて所得水準は同じでも家計から高い家賃や地代の支出を求められており、また、家を建てたいと思えば、地価が高過ぎて遠い郊外に住宅を求めざるを得なくなる。その結果、都市の利便度を享受するチャンスはむしろ喪失することになり、ますます睡眠時間や家族との会話時間は減少し、逆に、長通勤時間は当たり前、2時間程度の通勤は別に珍しくないということになってくる。このような長時間通勤は山口県のような地方では毎日出張するようなものである。更に、最近、問題化してきた老人医療・福祉において、一般の病院には治療のための介護者は存在しても、退院後、社会の中で自立して健康的に暮らせるようにするための介護者が少ない。なぜなら、治療を目的とする病院では「寝かせきり」の方が都合が良いわけで、老人はますます足腰が弱くなり、結果的に、病院は「寝たきり」老人を作り出す工場になっている。これでは、人間らしい生活を喪失させるといわれも仕方がない。このような「寝かせきり」老人を出さないことが社会の安定と真の「豊さ」につながると考えるが、人口の少ない小都市では「寝かせきり」老人を出さないための施設、病院やベッドの確保はおろか、治療を目的とした病院や医者の確保すらままならない状況にある。つまり、住民生活の「豊さ」を向上させ、「住みよさ」、「暮らしやすさ」を実感させてくれる社会、具体的には、人間らしい「ゆとり」と「うるおい」のある生活を享受できる制度、仕組みを計測することが重要になってくる。その意味では、今回の「住みよさ」、「暮らしやすさ」の算定結果と実際の実感との開きを認めざるを得ないわけであり、同時に、今後の課題といえる。

VI. おわりに

国を始め様々な調査機関が、生活の「豊さ」、あるいは「住みよさ」、「暮らしやすさ」に関連して、様々な生活水準指数やランキングを発表している。例えば、経済企画庁が一昨年と昨年に発表した内容を見ると、山口県は比較的上位にランクされており、山口県は「住み良い」地域との評価を受けている（参-1～2）。ところが、その「住み良い」はずの山口県から若者が県外に流出し、人口は減少の一途となっている。このことは山口県内のほとんどの都市においても同様である。しかしながら、若者がわざわざ「住

み良い」県、「暮らしやすい」都市を嫌って出ていくとは考え難い。そこには、若者が出ていく原因があるはずであり、若者が求める何か、若者にとって魅力のある何かがある。その都市に不足していると考えざるを得ない。もっとも、若者にとって魅力のある都市と老人にとって魅力のある都市、あるいは、女性にとって魅力のある都市と男性にとって魅力のある都市が全く同一とは考えられないということがある。

したがって、自治体を始め住民一人一人が、まず、自分たちの住んでいる都市をどのような魅力を持った都市にしたいのかを考え、その実現のためには何が欠けており、何を補充すべきかを検討する必要があるといえる。その意味では、今回の試算が、その順位だけを議論することなく、何故このような順位になったかを冷静に捉えて頂いて、今後の都市づくりを考える契機、材料として役立てばと思っている。

参-1

平5.4.15

山口県 住む 14位 働く 19位 育てる 6位

▲中央から見ると、そうなんでしょうね▼

経済庁の「豊かさの指標」

今回も上位ランク

経済産業省が公表した「豊かさの指標」(豊かさ指数)は、生活水準、教育、健康、環境、文化の5つの分野から構成される。山口県は、生活水準(14位)、教育(19位)、健康(6位)、環境(11位)、文化(10位)の順に順位を付けている。生活水準は、住宅、交通、娯楽、食生活、エネルギー、環境、健康、教育、文化の9つの分野から構成される。山口県は、生活水準(14位)、教育(19位)、健康(6位)、環境(11位)、文化(10位)の順に順位を付けている。

参-2

九州・山口 豊かさ低水準

「学ぶ」「費やす」平均以下

94年版国民生活指標 福岡は全国44位

平6.4.28

西日本

経済産業省の「豊かさの指標」

経済産業省が公表した「豊かさの指標」(豊かさ指数)は、生活水準、教育、健康、環境、文化の5つの分野から構成される。福岡県は、生活水準(44位)、教育(44位)、健康(44位)、環境(44位)、文化(44位)の順に順位を付けている。

都道府県	生活水準	教育	健康	環境	文化
北海道	1	1	1	1	1
青森県	2	2	2	2	2
岩手県	3	3	3	3	3
宮城県	4	4	4	4	4
秋田県	5	5	5	5	5
山形県	6	6	6	6	6
福島県	7	7	7	7	7
茨城県	8	8	8	8	8
栃木県	9	9	9	9	9
群馬県	10	10	10	10	10
埼玉県	11	11	11	11	11
千葉県	12	12	12	12	12
東京都	13	13	13	13	13
神奈川県	14	14	14	14	14
新潟県	15	15	15	15	15
富山県	16	16	16	16	16
石川県	17	17	17	17	17
福井県	18	18	18	18	18
山梨県	19	19	19	19	19
長野県	20	20	20	20	20
岐阜県	21	21	21	21	21
静岡県	22	22	22	22	22
愛知県	23	23	23	23	23
三重県	24	24	24	24	24
滋賀県	25	25	25	25	25
京都府	26	26	26	26	26
大阪府	27	27	27	27	27
兵庫県	28	28	28	28	28
奈良県	29	29	29	29	29
和歌山県	30	30	30	30	30
徳島県	31	31	31	31	31
香川県	32	32	32	32	32
高松市	33	33	33	33	33
愛媛県	34	34	34	34	34
高知県	35	35	35	35	35
福岡県	44	44	44	44	44
佐賀県	45	45	45	45	45
熊本県	46	46	46	46	46
大分県	47	47	47	47	47
鹿児島県	48	48	48	48	48
沖縄県	49	49	49	49	49

平成5年4月15日 山口新聞

平成6年4月28日 西日本新聞